

令和2年度 学校自己評価の取組の総括

I 評価シートにおける年度末達成状況（結果・考察）

| | | |
|-----|----------------|--|
| I | ① 進んで学習に取り組む子 | <ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの学年で2回目の結果の向上が見られた。成長とともに筋力が発達したことに加え、日々の体育の授業において鬼遊びを取り入れたり、休み時間にクラス遊びや鬼ごっこで外遊びを過ごしたりしたことで、向上につながっていると考えられる。引き続き、教師の働きかけをしていきたい。(健安) |
| | ② 聴き合い伝え合える子 | <ul style="list-style-type: none"> ○語彙を増やす活動については、コミュニケーションをする上でも必要不可欠な要素であることから、取組を継続していく必要がある。来年度は学級・学年単位の取組ではなく、学校全体で児童の語彙力を高める取組を行っていくことが望ましい。また、児童が安心して、主体的・対話的にコミュニケーションをとるためにも、お互いを認め合える学級づくりや間違いを受け止め、そこから学ぼうとする学級づくりが必要である。(教研) |
| II | ① 進んであいさつをする子 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童の自己評価の数値が下がっていたが、評価基準を明確にしたためであると考えられる。 ○教員との意識の差が縮まってきた。 |
| | ② 気持ちを考え行動できる子 | <ul style="list-style-type: none"> ○教師も児童も評価が上がっている。 ○友だちのことを知る機会が多くなり相手の気持ちや個性を理解した関わり方ができるようになってきた。 ○自分の余裕が出てきた子ども達が周りの友だちに優しい行動がとれるようになってきた。 ○仲良くなってきたことで、逆に厳しい言い方をしても大丈夫だと勘違いしている児童もいる。 |
| III | ① きまりを守る子 | <ul style="list-style-type: none"> ○時間を守って行動することが出来ていない現状が、廊下の過ごし方やスリッパをそろえるといった行動が出来ていないことにつながっている。 ○休み時間にすることの優先順位が分かっていない。 |
| | ② ものを大切にする子 | <ul style="list-style-type: none"> ○給食を残さず食べようと努力する児童が増えた。個々の好き嫌いなく食べようとする姿勢にはつながっている一方で、クラス全体の残食0にはつながっていない場合もある。そのため、個人だけでなく、クラスの残食にも目を向けさせていく企画を給食委員会中心に考えていく。(健安) ○自分で考えて掃除を出来るようになってきたが、基本的な掃除の仕方には課題も残る。 ○持ち物への記名が出来ていない。 |

II 子どもの姿の変容

「年度末の子どもの現状」における課題部に下線を付した。

| めざす子どもの姿 | | 子どもの現状（取組前の状態）5月中旬の姿 | 年度末の子どもの現状（取組後の状態）2月上旬の姿 |
|----------|---------------|---|--|
| I | ①進んで学習に取り組む子 | <p>1 知識面に関しては充実している子が多いが、一方で思考力や判断力、表現力といった力が不足している傾向がみられる。授業への全員参加の観点で見ても、友だちの意見や考えに関心が向いていない子が見られる。(教研)</p> <p>2 昨年度の体力テストの結果からも言えることだが、コロナウイルスによる臨時休校の影響で、全身持久力が弱い児童が多いことが考えられる。(健安)</p> | <p>1 6年間を通して積み上げられる基礎的な知識、また、それらを活用するための<u>思考力や判断力、表現力</u>といった力が不足している傾向がみられる。授業への全員参加の観点で見ても、<u>友だちの意見や考えに関心が向いていない子</u>が見られる。<u>「分からないから」「自信がないから」という理由で、自分の考えを表現することに対して消極的な児童</u>が見られる。(教研)</p> <p>2 ほとんどの学年で2回目の結果の向上が見られた。成長とともに筋力が発達したことに加え、日々の体育の授業や外遊びで鬼遊びを経験している子どもが多いことが向上につながっていると考えられる。(健安)</p> |
| | ②聴き合い伝え合える子 | <p>1 ペアやグループ学習の際、自分の考えを伝えることができる子が多い一方で、友だちの話を聴いたり、聴き出したりする姿はあまり見られない。(究)</p> | <p>1 ペアやグループ学習の際、自分の考えを伝えることができる子が多い一方で、友だちの話を<u>聴いたり、聴き出したりする姿はあまり見られない。</u> 扱える語彙が少なく、<u>自分の思いを的確に表現できない児童</u>が見られる。</p> |
| II | ①進んであいさつをする子 | <p>1 以前に比べてあいさつをする児童が増えたが、朝から元気よくあいさつできる児童は多くない。(生指)</p> | <p>1 少しずつ朝からあいさつできる児童が増えてきたが、<u>まだ特定の相手に対してしかできていないところがある。</u>(生指)</p> |
| | ②気持ちを考え行動できる子 | <p>1 楽しく学校生活を送っている児童が多いが、人間関係等に苦慮し、自己肯定感が低い児童も見られる。</p> <p>2 他者を思いやる気持ちをもっているがその気持ちを言動に表すことができない児童もいる。</p> <p>3 コミュニケーション不足から自分の気持ちを素直に伝えられず、トラブルになることがある。(人権)</p> | <p>1 各学級での取り組みもあり、自己肯定感が低かった児童も高められた。</p> <p>2・3 各学級のこれまでの取り組み（道徳や学活など）や長い期間同じクラスで過ごすことから相手の思いや個性を理解し合うことができた。そこから相手の気持ちを考えた行動がとれるようになってきた。また、十分とは言えないがコミュニケーションも取れるようになってきた。(人権)</p> |
| III | ①きまりを守る子 | <p>1 校舎内で走ったり悪ふざけしたりしないという生活のきまりに対する規律意識が弱い児童が多くみられる。(生指)</p> | <p>1 <u>時間を守って行動する意識が低いこと</u>によって、<u>廊下を走ったりスリッパを雑に脱いだりする行動</u>につながっている児童がみられる。(生指)</p> |

| | | |
|------------------------|---|--|
| <p>②ものを大切に する子</p> | <p>1 給食の残食が多く、野菜の和え物や酢の物などの苦手なメニューを食べきれず残してしまう児童が多い。(健安)</p> <p>2 しっかり掃除が出来るようになってきたが、自分たちで考えて進めることが苦手な児童が多い。(生指)</p> <p>3 持ち物への記名がない児童がよく見られる。(生指)</p> | <p>1 好き嫌いなく食べようとする子どもたちの姿勢にはつながっているが、クラス全体の残食0につながっていない場合もある。(健安)</p> <p>2 自分たちで余った時間を有効に使って掃除できるようになってきたが、<u>基本的な掃除の仕方</u>については改善する必要がある。(生指)</p> |
|------------------------|---|--|

Ⅲ 本年度の取組への意見

適切であったという意見には○、改善が望まれるという意見には●を付した。

① 「6つのめざす子どもの姿」は、取組の目標として適切であったか。

○各学年に合った具体的な目標も掲げられ、取り組みやすかった。

【学校運営協議会からの意見】

●大きな目標に対して何が大切かを考え要点を絞り、強弱をつけて進めていってはどうか。

② 評価シートの形式や内容は、適切であったか。

○評価の内容が詳しくなり、より具体的な評価ができるようになって良かった。

●2学期では1が「よくできた」で3学期は4が「よくできた」だったので統一しておく。

●できていない時だけ理由を書くので理由を書きたくない児童が「できた」と書いて理由逃れをするので、できた時にも理由を書いた方がよいと思う。

③ 「教員による観察」と「児童への質問紙調査」による評価は、評価方法として適切であったか。

【学校運営協議会からの意見】

●「教員による観察」と「児童への質問紙調査」による評価の結果の隔たりに対してどうしていくのか。

●「教員による観察」と「児童への質問紙調査」の結果の隔たりを改善するために「児童への質問紙調査」の設問を教員側の評価規準を加えて具体的にしていってはどうか。

●「教員による観察」結果を示す4段階評価の割合が厳しいので見直してはどうか。

④ 研修・指導部会（“縦系”）と各学年・各学級（“横系”）による取組は、組織的な取組として適切であったか。

○6年間を通しての「目指す子どもの姿」を確認できたので、つながりが意識できて良かった。

⑤ その他の意見

●目標が多いので、3つに絞ってはどうか。

●チャイム席などの学習規律については、めざす姿とは別に「南が丘小学校の学習のきまり」にまとめ、学校で統一した取り組みとしてはどうか。

【学校運営協議会からの意見】

○ペアやグループでの学習の場を設定していることは、みんなの前で話すことに抵抗を感じている子にとって自分の考えを話しやすい場となっていると考える。

○「気持ちを考え行動できる子」についての取組で課題をみんなで考えクラスの問題としてみんなで解決していているところはとてもいい取組と考える。

●「進んで学習に取り組む子」のチャイム席の評価規準は、「きまりを守る子」の項目ではないか。

●積極的に手を挙げるのが「進んで学習に取り組む子」なのだろうか。手を挙げなくてもしっかり話を聴きじっくり考え、学習に取り組んでいる子は、「進んで学習に取り組む子」ではないのか。

●「評価疲れ」になっては意味がないので、児童にとっても教師にとっても負担にならないようにすすめてほしい。

●児童の結果は高評価が多かったことから、自己肯定感が高いと考えられるので、児童がいいと考えているところを認めながら伸ばしてほしい。

●給食の事が、評価規準にないので、入れていく。

●児童質問紙調査の設問内容が児童にちゃんと理解されているのだろうか。

●評価（児童の質問紙の設問）が、あまり細かいと児童が負担を感じたり、いい子であらねばならないと感じたりしてしまうのではないか。

●「学校は楽しいですか」という内容をいれてはどうか。「学校が楽しい」ということは、つまりは進んで学習に取り組めていたり、気持ちを考えて行動できていたりするからではないか。